



2021年5月6日

各 位

三重県保険医協会

運動の取り組みについて

2月25日、WEBでドクターズ・デモンストレーション企画2・25国会内集会在開催された。三重協会から宮崎会長、鶴飼・梅村各副会長、横山理事が参加した。

オンラインの35人（三重協会から4人）含め約100人（国会議員：10人、マスコミ18人）が参加。評論家の荻上チキ氏から「メタ議題」としてのコロナ感染関連話題のメディアへの取り上げられ方の問題など講演され、大震災などでも指摘された「反省と検証」の不十分さを強調、今後政府のみでなく、国会や各方面での検証の必要性を訴えた。その後、医師ユニオンの植山氏（無給の大学院生がコロナ対応要員となっている現状）、開業医会員の山崎氏（小児科・耳鼻科への影響の大きさ、地域医療構想での公的病院統廃合議論への懸念）、歯科会員の杉山氏（齲蝕・歯周病の増加悪化状況）、医労連の佐々木看護師（感染対応病棟での看護労働の深刻さ）、病院管理の大島氏（今後のワクチン対応のマンパワー不足への懸念）など現場から切実な状況と懸念が語られた。根本には、日本の社会保障制度の脆弱性や医療費抑制政策を基にした医療提供体制・マンパワー不足が基礎にあることが共通認識された。感染症対策体制の強化や医師・看護師の抜本的増員を求めるなど8項目の要請書を国へ提出することを確認した。

（三重県保険医協会会長・宮崎智徳）

3月18日、WEBで「#医療費窓口負担2倍化止める」緊急国会内集会在開催された。三重協会から宮崎会長、鶴飼・梅村各副会長が参加した。

全国からWEB参加を含めて155人参加があり、国民民主党、立憲民主党、共産党から12人の衆参国会議員も参加し挨拶した。

後期高齢者の窓口負担2倍化は、来週末にも国会審議が行われるとされている。年収制限はあるが、単身で年収200万円以上の方が対象となり、後期高齢者の約3割が影響を受ける。高齢になるほどいくつもの病気を抱えることになる中、年金は削減され、介護保険料は増え、そのサービスが低下し、これ以上の負担増は、高齢者の受診抑制につながり、それは健康悪化にもつながる。参加された高齢者や医療関係者の方々からも法案の撤回を求める発言が相次いだ。

集会后は、本村伸子（衆比例東海・共産）さんと懇談し、改めて法案の撤回に向けて共に協力していくことを要請した。

（三重県保険医協会副会長・鶴飼伸）

以 上